

萬天日録

四三

二

内閣文庫	
番號	和 35308
冊數	28(2)
函號	163 218

内閣文庫	
和書類	三五三〇
冊號	二八
架	一六三函二四



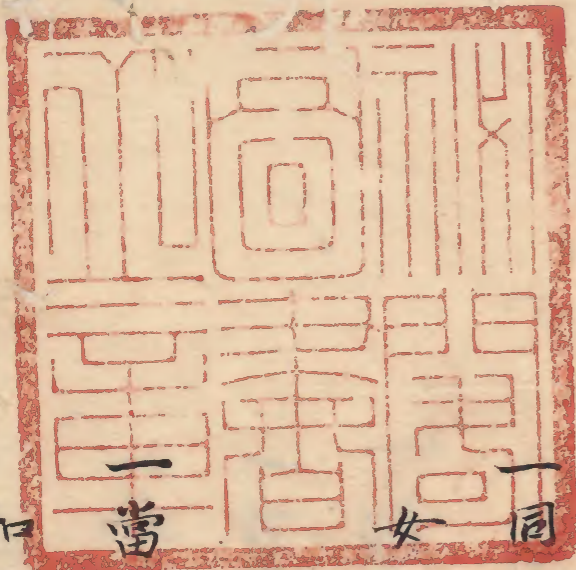
Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



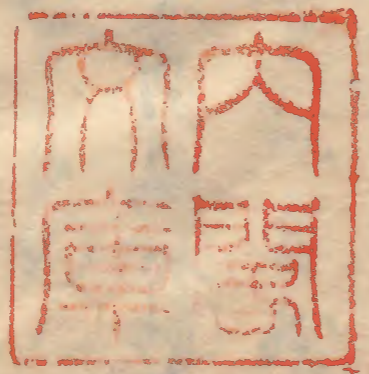
© Kodak, 2007 TM: Kodak





萬天月銀 卷之三
寬文三年癸卯
四月小朔日記

三日節
十七日



記録

引馬文庫

一同月八日二小笠原丹後守信吉孫三郎 信次男

女院附屬 鈴木治路守重松之助 定勝男

右兩人從五位下位入

一當月光山江脚社參二付脚墨印并下

知狀之事

後、

一今度日光供奉之時不取御道直

一百万石殿中喧嘩論議之刻意目如相定其者切可

相斗之也并於町中ある可何ら其所不在合

く御よりとて少許り及御へ接可

不取御集り

一於旅殿有大事有之何彼人之外不可

多事

一今度供奉人御へ候之侍定其自先

中旨何れは右江戸少治小及御へ但

手料之者各別を其の旨も御人

中御へ交裁許り

一总務之御馬より下り之儀に御中を

礼を届うす并書立の外旅殿に供奉

其の御事

一月付之西へ并番取迄御人へ候志

不及沙汰維新の如く華夷の沙汰度之を
其邊野の振藉の如く其儀其品可也
一 小荷始るを右の方の通と命し一 烟山
坂の 小荷始るとは山のさの法とて通
止る事

一 徳道具入交りて通事

一 押買押賣令停し平監よ不伐採竹木
事附他色乃場(三)代不之牧也

有る案に於て遠犯の族名随科之怪をり
下分也自然自分之の事若し法奉
行人見逐す逐却令用捨之可也
夏夜下知状也

寛文三年卯四月日

御下

日光沙氣訪之刻下知状

一 而殿系於近前自然噴火事一 小荷外之時
源井雅樂以河内を後也世大和之辰但馬

改定令し維新火消し而之を要す相
斗之也

一町中火事一多し時之甚し切之を
斗也但火消し而之を要す相

石可相守也自之遠宵之族抄之也

此飛之煙を可消す嚴科之由也之故

此等之也仍執達也

寛文三年卯月日

義濃寺
豊後寺
雅樂院

一日先帝宗詣之時火事等之良御殿に

系上之也

酒井雅樂院 石動寺後寺 久世大和寺

去屋但馬寺 板倉院後寺 松平氏幼備

赤川下總寺 本妻之儀寺 松平因幡寺

本保野寺 石川徳登寺 内蔵式戸備

本保之儀寺 本森信濃寺 柳生飛彈寺

本保安房寺 御目身中

以上

出羽陸奥越後信濃此ノ七ヶ國八日光
ニ於テ訛經ヲ勒ムヘシ但シ五月八日
九日時分ヨリ兼合入テオラヌヤウニ
相越スルヘシ且亦出家一人シテ或ハ
ニヶ寺或ハ三ヶ寺ノ訛經勒ムヘカラ
サル莫

一寺院所持致サ、ル諸出家櫻ニ訛經ヲ
勒ムヘカラヌ

石ニヶ茶ノ趣ヲ其本寺々ヨリ能々吟
味ヲ致シ申シ付ラルヘキトナリ右ノ
外國々ノ諸出家八日光ヨリ毘婆門歸
寺ノ上東殿山ニ於テ相勒ムヘシ但シ
五月七日過ヨリ江戸へ相越ヘキ也
一當四月二十日ニ將軍家日光江脚參詣
ニ付テ自前日供奉之御觸アリ

一同月十四日ニ江府ヲ出脚有テ同十六

月二日光へ著御同十七日二御登山同
九月二大猷院殿ノ御佛殿証御参堂遊
ハ少し同九月四日二江城工還御
大桑村紀伊大納言殿
同村 尾張中納言殿
水村 水戸宰相殿
同村 紀伊宰相殿
森官村松平讃岐守

和泉村井伊玄蕃頭

一出御一日御先工参儿今市御番

酒井修理太丈

同二日目御先同所御番 本乡下野守

同日御先新町御番 水野出羽守

同日御先今市小屋番 松平甲斐守

一每日御先供奉一時代

酒井日向守土井兵庫頭酒井河内守

稻葉丹後守

一 每日押工

安藤對馬守阿部播磨守久世大和守

一 每日御近習御供

土屋但馬守堀田備中守酒井權樂頭

酒井河内守稻葉丹後守酒井日白守

土井兵庫頭

右四将ノ家来毎日御先へ

久世大和守阿部播磨守安藤對馬守

右三将ノ家来毎日御跡ニ

吉良若狭守品川内膳正吉良上野助

右ノ高家衆日光ニテ御先へ

供奉

松平民部少輔赤川下総守久保豊前守

内藤式部少輔松平備中守大森信濃守

安藤備後守

御側御小性衆

松平紀伊守松平内記久保兵部少輔
安藤伊勢守毘部志广守毘部隠岐守
三枝對馬守神尾播磨守内藤上野守
板倉市正

新御番頭

遠山十右衛門青山藤右衛門大置忠次郎
天野三郎兵衛

右何し七組中十六人、

御使役

渡辺筑後守加藤平内安藤九郎左衛門
川口源兵衛水野庄左衛門西尾藤兵衛
久保平左衛門佐々又兵衛荒木十九郎門
御諸道具奉行

服部与左衛門佐久間守右衛門山角藤兵衛
渡辺兵左衛門佐野与右衛門花井庄右衛門

櫻井庄五郎大悪二郎兵衛

小十人組頭

新庄与三右衛門 組元一人

鳥井三郎右衛門 組元二人

大久保甚兵衛 組元二人

河村善二郎 組元一人

宅間伊織 組元一人

筒井内蔵 組元二人

御步行頭

神尾内膳高田庄九郎衛門本多平右衛門

朝倉仁左衛門大森半七郎悪野長十郎

市橋傳左衛門落合源右衛門榊原大膳

大久保彦兵衛

小十人組

阿倍忠兵衛

御步行頭

宮城三ノ門安藤傳右衛門

右ノ組御法度ニ付御先ハ遣ハサレ

御旗奉行

嶋田五郎兵衛筑助兵衛 与力十騎
同心十人

右御旗指ノ中間三十八人御旗長持并

御馬仰長持等持以人丈八人 御賄方
ヨリ出

御旗竿持三十人御馬仰持 同心

御鎗奉行

安藤次右衛門松田六郎右衛門 同心十
人

御持弓頭

内藤甚兵衛柳原左衛門兼松亦四郎

与力十騎同心
五十五人

御持筒頭

日向羊兵衛近藤勘右衛門坪内羊三郎

松平助之進 与力十騎同心
五十五人

御小納戸衆

遠山半左衛門成瀬宇右衛門久保三十郎
本多金石衛門松平傳左衛門久保兵九郎
牧野七左衛門石原宗左衛門江原九郎右衛門
山邑十兵衛松平二郎兵衛鴉殿十郎左衛門
万年佐左衛門三宅市右衛門松平茂太夫

脚小納戸本方脚先八遣八寸儿

山本傳右衛門

同組衆

戸張源五右衛門欽木市郎兵衛池田勘兵衛
上田宇右衛門安藤勘右衛門

百人組頭

近藤登之助坂部三十郎横田次郎兵衛
与力二十名
同心百人以上

脚鉄炮頭

近藤五左衛門成瀬吉右衛門菅沼藤十郎
世野權左衛門弓削多源七郎大久保四郎左衛門

小林平十郎難波田善左衛門 目心五人

御細工頭

井関与五郎 同心四人

御馬方

諏訪部彦兵衛西川清左衛門石川弥左衛門
大久保市郎右衛門坂本小左衛門飯塚羊左衛門

中奥御小姓衆

石川吉之助野々山瀬兵衛柳生飛澤守

柳原左京秋山大学水野主殿進喜太郎

日根野權十郎石丸五左衛門

日光へ御先へ遣寸し候故宿入不候

小堀下総守大久保安房守井上兵庫頭

石川市正小笠原丹後守大沢右近太夫

能勢山城守戸田榎津守三好能登守

御目付衆

猪飼源左衛門寛新兵衛安藤市郎兵衛

稻垣清左衛門赤川小左衛門

御腰物持六人

御茶込 六人

御醫師

今大路道三 吉田意安 野間三竹

真瀬養安院 良心 長悦

兼保道訓 齒醫 笠原養泉 醫佐田玉川 立針

坂立雲針立

儒者 林春海 御先へ

御膳奉行

杉浦弥市郎三嶋清左衛門松平彦兵衛

秋浦三郎右衛門

御勘定衆 御先へ遣ハ寸儿

雨宮次郎右衛門大柴六兵衛青木喜左衛門

長谷川左太丈

御右筆衆

大橋長左衛門小嶋久左衛門渡辺傳四郎
神尾小左衛門久保金左衛門建部傳右衛門
杉浦伊右衛門大河内市郎右衛門加茂宮左衛門

御納戸本方組頭

雨宮權左衛門前田五郎右衛門同心

同拂方組頭

神田三右衛門下田四郎左衛門

右之組衆

有田藤兵衛田邊傳三郎布世六右衛門
杣浦十右衛門藤方市良右衛門竹尾佐右衛門
竹川前右衛門富士七良右衛門山本治右衛門
今井友之助右八御先八遣ハナ儿

伯永方 橋本權之助

御臺所方

天野五良太吏鈴木喜左衛門

右組頭

握屋半左衛門鈴木喜兵衛吉村七良右衛門
黒川伊左衛門

御膳方脚臺所衆十五人

表方御先八參候御臺所衆二人

小遣ノ頭 淺井彦兵衛

御賄方ノ頭一人

同組衆十二人 六尺六十一人

新組衆九十二人

御旗同竿脚馬
仰脚具足持

御大工頭

鈴木修理御先八

木原木工 御供

御同朋頭

永倉珍阿弥石川細阿弥

同組頭 堤道巴 永巴

奥坊主九人表坊主九人時計坊主二
人火之番坊主二人

御敷寄屋方頭

櫻井宗恩 鳴海宗圓

同組頭 道專 宗有 休盛

御勝手坊主十二人 御路次一人 者十三人

園目付

堀又右衛門 佐原三右衛門 板倉鏡後守 支配

窪寺小左衛門 大村藤右衛門 松平民部少輔 支配

内藤加兵衛 今福權兵衛 赤川下總守 支配

御具足役人五人 御太鼓役人三人

長滝四郎兵衛 近藤太郎兵衛

御歩行目付衆三十人

内日光下 御先八組頭一人 外二五人

御歩行押八人 火番十組二 子頭一

人 灯燈奉行二人

黒鋏頭

上岐三郎兵衛 同心五十人 御矢箱 御草笥持

千人組頭

原半左衛門 同心八十三人

御中間頭

畔柳助九郎 大世金三郎

御中間二百十三人内目付二人押十

人外御旗者五十五人

御小人頭

伴六左衛門 牧野金助

御小人二百人内九五人内目付十人

押入

御駕筆頭

猪飼次郎兵衛佐野伊兵衛高橋与左衛門

御駕筆ノ者以上三十七人

火消番衆

水野半左衛門山口平兵衛永井十左衛門

秋山十右衛門

石谷与力六郎 同心三十人火消中

同七十人、ナリ
三月下旬ヨリ登山ノ面々

井上河内守松平和泉守丹伊兵部少輔

水野監物板倉隱岐守加々久甲斐守

永井伊賀守松平備前守那須遠江守

今度供奉之衆中へ金銀下ナリ

一銀三百枚宛 御書院番頭衆へ

一右同断 御小姓組御番頭衆へ

一金二十枚 大目付衆へ

一銀二百五十枚宛 御目付衆へ

一同二百枚宛 御鎗奉行衆へ

一右同断 新御番頭衆へ

一同百五十枚宛 御歩行頭衆へ

一右同断 御書院番頭衆へ

一同断 御小姓組衆へ

一同断 小十人組番頭へ

一銀百五十牧宛

御使役衆へ

一同百牧宛

御納戸頭衆へ

一同二百牧宛

御持弓頭衆へ

一同百五十牧宛

御先鉄炮頭衆へ

一同五十牧宛

惣平番衆へ

一同廿牧宛

惣与力衆へ

一金三兩宛

同同心へ

一銀二百牧宛

百人組ノ与頭衆へ

一同百五十牧宛

火消衆へ

一金三十兩宛

新御番平番衆へ

一銀三十牧宛

小十人平番衆へ

一金拾牧宛

御歩行組頭衆へ

一銀九牧宛

御歩行衆へ

以上

一目光山へ御贈組之勅使院使本院使

新院使へ之御馳走人ノ更

一勅使 德大寺前右大臣

一御馳走人 堀丹波守

一御賄 八木次郎右衛門

一安居院日光宿坊光榮坊日光江戸御

一宿傳養屋敷御馳走人宿

一院使 小川坊城大納言

一御馳走人 兼山修理亮

一御賄 天羽七右衛門

醫王院日光宿坊正住坊日光江戸

御宿院使屋敷御馳走人宿

一本院使 阿野大納言

一御馳走人 小出大隅守

一御賄 雨宮甚兵衛

一悅藏坊日光宿坊心教坊同所江戸御

一宿高倉屋敷御馳走人宿

一新院使 持明院大納言

御馳走人 立花和泉守

御賄 深谷喜右衛門

蓮性坊日光宿坊利仙坊同所江戸御

宿女院使屋敷御馳走人宿

一梶井御門跡

御馳走人 九鬼玄部少輔

御賄 南条金左衛門

通住坊日光宿坊明日坊同所江戸御

宿青松寺御馳走人宿

一奴法院御門跡

御馳走人 遠藤脩前守

御賄 伊奈兵藏

正定坊日光宿坊常觀坊同所江戸御

宿天德寺御馳走人宿

以上

執網執蓋御役人

一殿上人三人一宿日光坊

日光賄 久保平九郎

江户二六 下行

一樂人五十四人

石何七直二日光江登山也

一同年四月流刑御赦免之面々所謂

番田藤之助 細井喜三郎

山田権九郎 井上羊十郎

稻富喜三郎 滝河三九郎

久能 左門 小野傳三郎

小野次郎兵衛 倉橋三九郎

加藤甚兵衛 系屋甚兵衛

石駿府御番四十八人ノ内也

松田源七郎 小長谷傳兵衛

林平左衛門

右三人ハ御臺所衆

平沢五郎七
内山十郎兵衛

利倉善作

右三人、御赦免其上可被召出之旨也

置田淡路守
門奈那左衛門

寛五郎右衛門
加藤源五左衛門

筒甚十郎
鈴木權左衛門

右ノ面々国御免

一中山勘三郎吏同姓勘解由知行所へ被

遣之彼在所ニ可差置ノ旨ニテ米九石

被下置之候へ比新規地取ニテ百石被

下之

岩松万次郎
安藤権助

土岐守右衛門
万巻喜三郎

留久右衛門
坂田十左衛門

鈴木九郎右衛門
鈴木八左衛門

真津猪之助
小笠原七右衛門

水谷市之允

水谷熊之助

同長太郎并娘一人

高崎十右衛門

荒木小兵衛

中根五郎八

九鬼内記

山形市郎右衛門

山形三左衛門

矢嶋五郎八

八木宫内

鈴木十兵衛

内山茂太史

真砾大吉

真砾長助

柴田七郎右衛門

一柴田六之助受何方へ成氏心次第二可

有罷候氏喜連河へハ無用

一松平因幡守莫男子女子氏二心次第二

可罷有之由也

小山田傳四郎

二階堂主殿

一色九京

一色八之允

相木与右衛門

柴田弥左衛門

柴田三左衛門

森七兵衛

大童九郎右衛

生駒左門子氏六人
心次第

福嶋助六郎

高野山学侶方
宝性院

大樂院

宝勝院

相国寺
日光院

宗吕院

乙益勅左衛門

大久庄庄之助

高祖院

同山行人方
見樹院

蓮華上院

宗井長老

春岳

京四條道場隱
南竜寺

大嶮御免
長田寺

右長田寺支配所二ノ令病死付子氏

御免也男子一人
女子二人

長谷川長三郎
柏木清吉

一駿列邊ノ同屋篋舎御免網落仕候也

カレヲハ弥相尋可申旨也

一相列津久井村ノ名主内藤九兵衛追放

御免所上飯シ可申也

石何後脚免面々

一同四月廿日內藤外記正重卒干時

一同月九六日安藤備後守次俊卒干時

萬天日録卷之三終

萬天日録卷之四 自三年五月 至四年十二月

寛文三年

五月小朔日 癸十四日節 亥廿九日中

一丑月六日二酒井紀伊守入道宗三卒又

干時七十六歲

一同月九日二成瀬隼人正入道一岳卒又

干時七十歲

一同月十三日二伶人ノ舞ヲ被仰付

辰ノ下刻御白書院へ 出御下段東ノ
御次ノ間ニ御著坐御普代大名衆御誥
衆一同ニ御 目見終テ舞樂始ル

振梓三郎

万歳樂 六人 延喜樂 六人

散手 一人 貴德樂 一人

太平樂 四人 狗鉾 四人

抜頭 一人 還城樂 一人

耳列 六人 胡德樂 六人

安摩 二人 新靺鞨 六人

打毬樂 四人 崑崙八公 四人

春庭樂 四人 林哥 四人

陵王 一人 納曾利 二人

退出長慶子

右胡德樂ニテ過テ御中入御饗應始ル

一御新番所ニテ

保科肥後守

松平讚岐守

井伊玄蕃頭

保科筑前守

松平右京丞

松平式部大進

保科新次

老中

御近習ノ面々

一御黒書院御次ノ間并ニ御右筆部屋

後ノ間ニテ

高家衆 御誥衆 奏者御番衆

老中息 諸役人 醫師

一柳ノ間ニテ御普代大名衆

一菊ノ間并雁ノ間芙蓉ノ間ニテ

諸番頭 布衣己上

一小十人組御番所ニテ惣御振舞

一檜ノ間ニテ 樂人己上

一同月廿日今年始テ殉死御制禁ノ赴被

仰出之

位下二叙任又

一同月同日大沢兵部大補基將右少將從四位上二叙任又

一同月十四日大久保豐前守忠貞頓死于時六十八歲

一同月廿四日遠山因幡守為章卒又于時六十歲

七月大朔日丙六月節
寅廿二日中

一七月廿五日黑田市正之勝卒又于時三十歲
一十歲元八右馬頭卜云黑田市正高政男實八松平筑前守忠之男

一同月廿九日小笠原壹岐守忠知卒又于時六十五歲

八月小朔日丙七日節
申廿二日中

一八月朔日鳥井主膳正攝州大坂城為勤

一番赴於彼旅宿横死干時四十歲

一同月十六日松平大隅守正成卒于時

五十五歲

松平加賀右衛門正次之二男

九月大朔日

八日節 丑廿三日中

一同月廿二日久世大和守廣之後四位下

二叙久

十月大朔日

九日節 未廿四日中

一十月九日黑田市正跡令嗣十千二依于

黑田右衛門佐光之二男官内長寛養子

卜十リ家督相續被 仰付之

十一月大朔日

九日節 丑廿四日中

一十一月六日牧野織部正成常隱居同日
剃髮号吉峯

十二月小朔日未九日節

一十二月二日嶋津右馬頭久雄卒又于時
三十一歲

一同月廿三日女院御所附属野々山肥前

守兼吉後五位下二叙又

一同月廿七日德川右兵衛督綱義卿從三
位右近衛中将二被叙任

一同月廿八日加階之面々

伊予守忠昌二男

松平中務大浦昌勝

隱岐守定頼二男同日三改隱岐守
松平石見守定長

飛騨守利治男
松平飛騨守利明

右三人從四位下二任也ラ儿

一同月同日叙爵被 仰付面々

小笠原遠江守長真 伊東出雲守祐實

京極伊勢守高盛 木下淡路守利貞

青山和泉守忠親 小笠原能登守長治

伊達市正 宗真 阿部美作守正武

赤川出羽守重信 板倉伊豫守重政

谷 出羽守衛廣 堀 市正 包周

森川撰津守重明 矢代越中守忠至

左典廐家臣 渡邊豐前守綱治 右典廐家臣 大久保越中守忠辰

右十六人從立位下二叙任久

一同日二石川能登守兼政改美作守

一同日二三好能登守政盛改石見守

一同日二相良長門守勝胤改忠胤

寛文四年

正月大朔日 甲十一日 立春
子北六日 中

一正月十七日辰后刻紅葉山御宮へ御参

宮 御装束 御先へ老中不殘参御供土屋但

馬守土井能登守松平民部少補

御太刀 本多土佐守

御刀 松平因幡守

御沓 大久保兵部大補

御簾 吉良若狹守

御鏡 松平備前守

酒井日向守

御酌 大澤兵部大補

御加

畠山下總守

供奉之行列

右

朽木伊予守
内家飛驒守
板倉隱岐守
永井右近大夫
土井大炊頭

阿部伊豫守
安家對馬守
堀田備中守
阿部播磨守
青山大膳亮

土屋但馬守
松平氏部女補
石川美作守
大久保豊前守
大森信濃守

此間雙方供奉之衆又御

松平紀伊守
内坂式部女補
本多土佐守
松平因幡守
土井能登守

己ノ上刻 還御

一御本凡御苗守居 常御苗守居衆

一還御以後為御機嫌伺御三人方并御兩

典ヨリ使者上ル御老中ニ謁メ退去

一同月十九日廣渡院ニ於テ今日ヨリ万

部御経始ル依テ為御名代酒井雅樂頭

叅堂

万部中辰下刻ヨリ未ノ刻ニテノ内ニ

本堂へ参詣有へキ旨被 仰付之

一御香奠負數ノ莫去年日光并ニ東叡山
へ上リ候通献上アルへキトナリ但シ
北四日還御已後ニ本堂へ使者ヲ以テ
差上ラルへキト也

一白銀二十枚 三十万石已上

一同 十枚 十万石ヨリ 廿万石迄

一同 五枚 廿万石已上之嫡子

一同 五枚 五万石ヨリ 九万石迄

一同 三枚 壹万石ヨリ 四万石迄

一同 三枚 拾万石已上之嫡子

一壹万石ヨリ已下ハ或ハ二枚或ハ一

枚心次才タルへシ

右御香奠ノ員數日光東叡山トモニ右
之如シ已後トテモ此旨ヲ相守ラルへ
キトナリ



一同北日辰ノ后刻紅葉山御仏殿へ御参

詣御装東御先へ酒井雅樂頭阿部豊後守

久世大和守

御供

土屋但馬守

土井能登守

本多土佐守

大久保出羽守

吉良若狭守

御太刀

御刀

御簾

御沓

松平紀伊守

供奉行列

左

右

内夜飛驒守
松平備前守
板倉隱岐守
小笠原山城守
永井右近大走

阿部伊予守
安友對馬守
青山大膳亮
浦井日向守
之浦志摩守

大表信濃守
松平民部大補
土屋但馬守

此間諸大夫雙方六十六
御

松平因幡守
森川下總守
土井能登守

即刻 還御

一御本丸御留守居 常御留守居衆

一還御以後御兩典御三人方ヨリ為 御

機嫌伺使者上几老中ニ謁シ退去

一同月廿一日加笈式ア女補明成卒ス于

時七十歳

一同月廿四日 台徳院様三十三回御忌

之御法夏ニ付被 仰付役人

惣奉行

井上河内守

加々爪甲斐守

足田豊前守

所々御役人付

本堂

大久保加賀守

山門

土井大炊頭

裏門

石川主殿頭

町口

本多下總守

庫裏口

遠山信濃守

極樂橋

堀式部少輔

方丈御賄

伊素半左衛門

惣御賄方

八木次郎左衛門

下行

南条金左衛門

施行

曾根五郎左衛門

雨宮勘兵衛

一贈經使卜メ下向ノ公家衆御馳走御賄

左ノ如シ

勅使

中御門前大納言

法皇使

東園

中納言

右兩使氏ニ席傳奏之間

御馳走人

鳥井兵部少捕

御賄

柴村次郎衛門

本院使

東坊城中納言

新院使

花山院中納言

右兩使氏ニ席院使之間

御馳走人

小笠原土佐守

御賄

坪井次郎衛門

女院使

千種前宰相

右席女院使之間

御馳走人

内後右近大夫

御賄

設樂推兵衛

執綱執蓋役ノ殿上人四人

一十八日ノ晚ヨリ十九日ノ晚ニテ

御目付

宮崎助右衛門

長田六左衛門

朝倉仁左衛門

安友傳右衛門

筒井内藏之助

御步行頭

小十人頭

一十九日ノ晚ヨリ廿日ノ晚ニテ

御目付

森川小左衛門

御步行頭

小十人頭

一同廿日ノ晚ヨリ廿一日ノ晚ニテ

真津兵左衛門

牧野傳藏

市橋傳左衛門

縮生七郎衛門

御目付

土岐縫殿之丞

土波十左衛門

石谷五右衛門

富永孫左衛門

御步行頭

小十人頭

高井作左衛門

一同廿一日晚ヨリ廿二日晚ニテ

御目付

安後市郎兵衛

猪飼半左衛門

御步行頭

宮城三左衛門

榊原大膳

小十人頭

三宅傳左衛門

一同廿二日晚ヨリ廿三日ノ晚ニテ

御目付

本多左太夫

島田菰十郎

御步行頭

川口源左衛門

是野長十郎

小十人頭

阿部忠衛門

一同廿三日晚ヨリ廿四日ニテ

御目付

稻垣清左衛門

牛込忠左衛門

御步行頭

高田庄右衛門
大久保彦兵衛

小十人頭

右ノ通御老中被仰渡之

定

一 左方右に下りて下馬より内侍三人又右に下りて下馬より内侍二人授箱持了る事

一 九方右に下りて下馬より内侍一人

一 箱持了る事

一 箱持了る事

一 箱持了る事

一 山門控樂指し内侍一人又二人

一 履取事

一 右列の儀従事等と下馬より三四町

外に前方に混乱極まり候事

て多指事

一 法大名金箔と成衣将衣又志大紋
申て申別より已別と内なる下
女官と向ひ長袴と着し同日午刻
より申別よりその内なる金箔事

己上

一 右御法夏ニ付叅向ノ勅使院使本院使
新院使女院使へ上使トシテ酒井雅樂

頭ヲ遣ハサル吉良少将同道也

一 廿四日増上寺へ御叅詣ニ付テ御普代
大名供奉仰セ付ラル間束帯ニテ彼ノ
地へ御先へ相越へキ旨ヲフレラルを
五ツ前ニ揃ヒ申へキトナリ

一 廿四日辰ノ后刻御叅詣御先へ酒井雅
樂頭阿部豊後守久世大和守土屋但馬
守此外御供板倉筑後守森川下總守也

彼寺ニ於テ所裝束ヲ召セラルル供奉行

列御普代大名所諾衆御近習ノ面々

御簾 吉良若狭守

御裾 戸田土佐守

御太刀 品川内膳正

御刀 森川下總守

御沓 本多土佐守

隨身之御役

西尾友兵衛 桑山伊兵衛

水野庄左衛門 天野弥左衛門

河野權衛門 三宅内藏助

供奉行列東帶

松平和泉守

本多越前守

是部内膳正丹羽式部補松平佐渡守

松平左近將監酒井備中守奉後肥前守

此間御普代衆御近習衆六十二人二行

御

青山大膳亮
板倉徳政守

内殿聴驛守
安發對馬守

一御仏殿御拜礼支終テ御装束所へ入セ

ラレ召替サセラレ知恩院御門跡御對
顔次ニ増上寺方丈御 目見へ撥耳一
折進上ナリ御盃頂載以後

白銀二百枚小袖十 増上寺方丈

同 二十枚同 二 同寺役者二人

右ノ通り下サレ御成ノ時ノ例ニ依テ
ナリ即増上寺ニテ御膳召上ラレ未ノ

下割 還御

一御本丸御留守居

土井能登守

松平民部少輔

堀田備中守

常之御留守居

當番之頭衆

一紀伊殿尾張殿水戸殿ハ清先ハ仙詣也

一御両典者 還御已後御參詣

一還御已後尾張殿同中將殿紀伊宰相殿

水戸殿曰少將殿右御家门ノ御方登營

是御法事首尾能相濟今日 御參詣

御機嫌能 還御之所悦十リ老中ニ被

謁退出有之

一右同新ニ付松平越前守松平加賀守松

平出羽守井伊玄蕃頭保科筑前守小笠

原右近大夫亦多内記松平下總守此外

御普代大名各登城或ハ老中ニ謁シ或

ハ奏者番衆ニ謁メ退出

一同廿五日ニ御両典登城是御法夏相濟

英昨日御仏詣御機嫌能 還御所悦卜
メ於御坐之間御對顔也

一同断ニ付因持大名一万石已上ノ面々

登城御白書院ニテ老中ニ謁シ退去

一昨廿四日 還御已後一万石以上面々

増上寺へ以使者御香奠ヲ納ラル

一同廿五日及暮井上河内守加々瓜甲斐

守是田豊前守登城是今度御法夏奉行

仰付ラル処ニ首尾ヨク相濟ニ付テ也

御側衆ニ謁シ退去也

一同日ニ智恩院御門跡へ御法夏御布施

トシテ白銀千枚上使稻葉義濃守ヲ以

被遣之

一同廿六日公家衆へ 御對顔ニ付己ノ

后剗御白書院へ 出御

紋綾ニ卷

太刀目録

中御門前大納言

右同断

東園中納言

右同断

東坊城中納言

右同断

花山院中納言

右同断

千種前宰相

御太刀目錄

七条中将

右同断

西洞院少納言

右同断

源藏人

右ノ通指上之御礼了テ退去也

一同北九日ニ御法夏ノ節相勤夕ル諸役

人ハ御麩羞被下之席ハ御右筆部屋ノ

後北ノ長圍炉裡之間ナリ

小袖三金二枚

方大賄伊奈半左衛門

右同断

小普請山本安兵衛

右同断

日武藏八郎衛門

小袖二金二枚

儒者林春意

同断

日人見友元

小袖二金一牧

御右筆

秋浦半左衛門

右同新

日

神尾小左衛門

金二牧

神勝役

岩井佐五衛門

右月新

本堂賄

八木二郎衛門

右同新

日

南条金左衛門

右同新

同

曾根五郎左衛門

右月新

同

兩官勘兵衛

金一牧

御右筆賄奉行

木部左衛門

同新

御右筆賄奉行

竹田六郎衛門

銀十牧

御扶持人

御大工棟梁

右同新

伊予守代

石川平兵衛

以上

被物之覚

唐綾紅梅裏

縫着桃裏

厚板桃裏

紅梅兩面

白綾紅裏

白兩面

一被物六領

智恩院御門主

一同六領 白綾三
白兩面三

増上寺方丈

一同三領 白綾一
白兩面二

傳通院

一同新

弘經寺

一同新

大光院

一同北六領 皆兩面

縁坐袒林十三人

一同北四領 右同

同坐所化十二人

一同新

同坐色明役十二人

一同四領 右同

方丈 役者二人

一同新 右同

右同 役者二人

一同八領 右同

淨信殿 列當四人

一同二領 白綾一
白兩面一

大樹寺

一同新

宝臺院

一同新

信光明寺

以上

一萬部御布施

白銀千枚

増上寺方丈

同二百枚

同寺隱居

同百枚

傳通院

同新

弘經寺

同新

大光寺

同五十枚

灵巖寺

同新

新智恩寺

同新

大樹寺

同新

寶臺院

同新

信光明寺

同千二百枚

經奉行其外役
人氏三四十人
一人二付三十枚元

同三千四十枚

寺持百五十二人

同四百五十枚

志明役三十一人

同六千三百五十六枚

所化九百八十八人

同二百五十枚

内陣殿主其外役

同七百九十九牧

人氏二十五人
一人二付五牧完
外陣殿主具外
役僧二百四十三人
一人二付三牧完

同四十牧

掃除之者廿人

御法夏ニ相加ハラザル所化等ニ

同二百九十八牧

西堂二百九十八人

鳥目六百五十四貫

黑衣三百七十七人

白銀百牧

樂人

同二十牧

御仏殿

列當二人

同十牧

武田玄了

同新

岩波少進

同新

園民部卿

同新

滞悦

是三列松應寺
使僧ナリ

鳥目七百貫

樂人廿八人

惣銀合一万五千二百二十二牧

鳥目合千三百五十四貫文

金ノ三百三十八兩二分

二月大朔日 甲十一日 申午 北七日 申

一二月五日二池田帶刀長賢二条御城番ノ中二卒去于時六十歳

一同月七日二伊勢へ御名代卜シテ内爰式尸少補被遣之於御坐之間御目見御暇被下之御召之沚羽織拜領之御前退去於御次ノ間金十枚被下之
一内官 江御太刀 長光代金 二枚 五両 金十枚

一外官 江御太刀 信国代 金二枚 同十枚

右之通御奉納之

一同月十九日二暮象撰所智督 三智 子 宗桂
宗用各十人杖持充被下之

一年始ノ公家衆来三月十日頃糸向二付御馳走人被仰付之

勅使 飛鳥井大納言 秋田安房守

柴村二郎衛門

院使 芝山中納言

木下淡路守

熊沢喜兵衛

新院使 清閑寺中納言

土方備中守

深谷喜衛門

花山院左府

御馳走所 久苗嶋信濃守
高倉屋敷 野村彦太支

三寶院門跡

宿坊 市橋下總守
真福寺 中川八郎左衛門

瑞真院門跡

宿坊 細川豊前守
音松寺 高室市郎左衛門

右ノ面々殿中ニ被召被仰付之

一同月廿七日ニ甲府館林兩相公ノ家臣

一人充營中ニ被召之御居城破損料卜

メ金子二万兩充被進之

一同日ニ毛利右京大夫

甲斐守 御前へ被
網免也

召所持ノ原藤四郎ノ服差ヲ指上ハキ

ヨシ御直ニ仰セ出サレ

一同月ニ信州諏訪ニ於テ松平上總外陪
臣千本内近病死セシム依テ檢使トメ
御步行目付室田助太夫ヲ被遣之

一同月ニ八丈島御代官谷庄兵衛跡役同
人物願弥五右衛門ニ被 仰付

一同廿八月ニ長崎町寄参上

天鵝絨十端
縮綿 北卷

町年寄
高崎四郎兵衛

鵝毛二端

同人子
同 市右衛門

紅糸五介

長崎惣代
池田市郎衛門

右何レモ落椽ニテ一同ニ御礼

一同月晦月ニ松平讚岐守頼重上屋敷ヲ

差上ケ目黒六軒茶ヤ边ニテ右ノ替地

願ニ奉ラル依テ願ノ通り替地トメニ

万坪下サレ旨彼家臣大久保主計ヲ管

中ニ召御老中被仰渡之

一 同日ニ安後對馬守重貞 御坐ノ間江

被召奏者御番 御直ニ被 仰付之

一 同日ニ伊豆下田関所奉行石野八兵衛

ニ蛸崎外浦ニヶ所以上四ヶ所最前ノ

御代官取ニ相添御預ケ其上新規ニ與

力立騎相付ラレ

一 同日ニ本多豊前守正貫隱居

三月小朔日 甲子 十二日節 廿七日中

一 三月廿一日本多豊前守正貫剃髮シテ
号休山

四月大朔日 癸巳 十三日節 廿八日中

五月小朔日 癸亥 十四日節 廿九日中

壬丑月小朔日壬辰

一壬丑月三日水谷伊勢守勝隆卒于時
六十八歳

一同月七日上秋播广守細勝於武州卒于
于時七歳

一同月同日二立花飛騨守忠茂隱居

一同月同日二相良壹岐守頼寛隱居

一同月土屋但馬守二五千石御加増

六月小朔日辛壬丑月十五日節
朔日中

一六月五日二上秋播广守一類ヲ被召被

仰渡赴播广守爰末期二及糎子ノ旨不

届二被 思召候依之福島領半分被召

上十五万石二于家督相續被仰付之即

三節ヲ喜平次景倫ト号ス

一同月十日大久保兵部少補忠知卒于

特三十六歳

一同月廿三日 女院御所付野々山丹後

守兼綱隱居剃髪ノ号無世

七月大朔日 庚寅 六月十八日節 三日中

一七月四日ニ竹中越中守重常卒ス于時

六十三歳

八月小朔日 庚申 七月十八日節 三日中

一八月三日ニ毛利伊勢守高直卒ス于時

三十四歳

一同月十四日ニ植村帶刀康朝卒ス于時

六十歳

一同月ニ伊勢内宮ノ榿木折タル由ノ風

訖達 高聽何故ニ言上ニ及ハサル由

御尋アリ神宮等申上ル様故ナキニ折

申タルニ候ハズ木ニ朽目沝空有シト

云々依テ子細ナシ

九月大朔日巳 八月十八日節
丑 五日中

一九月十二日本多下野守俊次隠居

一同月同日南部山城守重直卒ス于時五

十九歳

一同月十六日ニ伊勢ノ宮川ノ渡ニ舟沈

三人多溺死

一同月ニ松平讃岐守頼重ヲ被為召水戸

宰相光国嫡男兵部ヲ狼子ニ仕ルヘキ

由 御直ニ被 仰付之

十月大朔日巳 九月廿日節
未 五日中

一十月廿六日水野信濃守元和隠居同日

ニ判髪メ号道安息信濃守ニ家督相違

十夕被 仰付之

十一月小朔日巳 十月廿日節
丑 五日中

一十一月六日ニ南部山城守遺領十万石之内八万石ヲ重政ニ二万石ヲ才直房ニ新規ニ被立下之

一同月廿日立花飛騨守忠茂剃髮シテ号好雲

一同月廿四日ニ松平土佐守忠義卒ス于時七十三歳

一同月廿五日日本多下野守俊次剃髮シテ

号淨有

十二月大朔日 戊 十一月廿一日節 午 七日中

一十二月廿五日毛利甲斐守綱元 和泉守 光廣男

從四位下ニ叙ス

一同月廿七日石尾志广守治昌隱居

一同月廿八日ニ立花左近将監直茂 飛騨守忠

茂 松平兵部少捕昌親 伊与守 右兩人從

四位下ニ叙ス

一同月同日叙爵之面々

南部大膳大夫重信 大関信濃守增宗

増山兵部少輔利順 島津飛驒守久英

松平宮内少輔象高 保科市正 正純

本多隱岐守康慶 毘部備後守宣就

南部左衛門佐直房 井伊伯耆守直武

牧野遠江守康道 本多彈正少弼忠晴

酒井伊与守忠興 武田越前守信貞

水野伊豫守之重 稻垣市正 重次

酒井壹岐守忠辰 左典流家臣 戸田周防守忠高

右十八人從立位下二叙又

一同月廿九日水戸家臣鈴木石見守重政

從立位下二叙又

一同月晦日石尾志摩守治昌羽髮号宗實

萬天日録卷之四終



引馬文庫

